
青い教室

田中1号

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
青い教室

【Nコード】
N2189Z

【作者名】
田中1号

【あらすじ】
19歳の平凡な学生がある日事故に遭ってしまふ。
しかし、目を覚ました場所は自分が卒業したはずの学校だった。

非日常的な学園ストーリー

…になる予定（笑）

エピローグ（前書き）

初めまして。

まずはこの小説に足を運んでくださり、ありがとうございます。

この小説は、私、田中1号が

「ん〜なんかカッコいい趣味ないかなー。あ、小説執筆とかカッコよくね？」

と考え、ざかざかと書きたいいわゆる駄作でございます。

「そんなてきとーなもん読めるか！」

「なにふざけてんの？ウザ。」

などとお思いになられるかたは、速やかにお帰り下さいませ。

以上のことを踏まえたうえで、私の小説をお読みくださいますようお願い致します。

（田中1号）

エピソード

肌をさすような寒さ。

今年は例年よりも冬の訪れは遅いというけれど、去年よりもずっと寒いのではないだろうか。

街の人々も皆暖かそうな服装で、もうすぐクリスマスだからなのか、色とりどりのイルミネーションが街を飾る。

実家を離れて約1年。

やっと都会に慣れてきたように思うが、やはりここまで街が明るいと違和感を感じてしまうのだから慣れていないのかもしれない。10代最後の冬は俺の財布の中も、人間関係も、何もかもを冷やしていくんだろう。

そんなこっぴどくかしいことを考えながら、俺はブーツとしていたのだろう。

信号が赤になっていることに気付かなかった。

自分がゆっくりと宙を舞うのがわかった。

不思議と痛みは感じられない。

なぜか冷静にああ、俺はもう死ぬのか…と考えていた。

そして、ゆっくりと意識を手放した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2189z/>

青い教室

2011年12月7日22時47分発行